

城郭探訪

まちづくりと城の址

島原市 島原城

歴史をつなぎ、思いをつなぐ 「国指定史跡 島原城跡」

しまばら
島原市長（長崎県）

ふるかわりゅうざぶろう
古川隆三郎



わがまち「島原市」
「山あり海あり歴史あり」

長崎県の南東部島原半島の東端にある、温暖な気候で水と緑に恵まれた島原市。西



島原市全景

には「眉山」、その奥には1990年に噴火した雲仙普賢岳の溶岩ドーム「平成新山」、東には「有明海」を望む風光明媚な土地です。江戸時代、島原城を中心とした城下町として栄えた名残で、現在も武家屋敷や趣深い通りが点在する、古くから政治・経済・文化の中核的役割を担ってきました。

島原城跡をはじめとする歴史的遺産、火山や温泉、まちなかをゆったりと流れる湧水群などの地域資源を生かした観光都市であり、県内有数の農業地帯でもあります。

国指定史跡「島原城跡」
「市民の城は国民の宝」

島原城跡は、有明海に面した雲仙岳東方の扇状地上に、松倉重政公が築いた近世城郭の遺跡です。東西約350m、南北約1200mの長方形の外郭線内に、南から本丸、二ノ丸、三ノ丸（御殿）を直線上に配置し、その外側に家臣団の屋敷群、さらにその外側には31棟の櫓を規則的に並べた

堅固な城郭です。

寛永14（1637）年に勃発した島原・天草一揆では、一揆勢の包囲を撃退しています。一揆後に松倉氏が改易され、譜代大名の高力氏が入った後、途中宇都宮藩主の戸



島原城跡 本丸南東隅外周石垣



田氏との交代期を挟みながら深溝松平家の居城となり、明治維新まで島原藩の政庁として機能しました。

島原城跡の本丸には、最大径3mの鏡石を持つ豊臣系城郭の様式を継承した石垣と、算木積みを目指向する高さ17mの高石垣が併存しており、近世城郭に至る過渡期の石垣の特徴がみられます。

丸と二ノ丸は、曲輪内に升形空間を並べ防御を意識した堅固な構造です。また、外曲輪には、当時の屋敷割が継承され、現在の小早川氏庭園周辺では敷地内の池泉庭園や石組水路などを通じて城内の水利状況を感じることができま

島原城は江戸幕府が新規築城を制限した中で築かれた数少ない城郭で、有明海を介して有力大名と接する位置にあるため、幕府も重視していました。

このように、江戸時代初期の島原半島や周辺地域の関わりの歴史を伝える重要な遺跡として、2025年3月10日に島原城跡は国の史跡に指定されました。

築城400年 つなげ未来へ

2024年、島原城は築城400年を迎え、さまざまな記念事業を実施しました。そして、この記念すべき時に、島原市随一の観光スポットでもある島原城跡の歴史的・文化財的な価値が認められ、国の史跡に指定されたことは、大変な喜びでありました。

今年、11月24日には、史跡島原城跡国指定記念シンポジウムを開催いたします。城郭研究者をお招きし、島原城跡の歴史的価値

天草四郎の最期

島原城主・松倉勝家の悪政によって引き起こされた「島原の乱」。その首領として一揆勢を率いたという天草四郎時貞だったが、幕府軍の猛攻によってついには討ち取られてしまった。

谷真介の『クリスタン伝説百話』によれば、四郎が危機をむかえた折に、そうはさぜじと天狗が救出に向かったという。

天草下島の本渡にある染岳という山に棲んでいた天狗が、総大将の四郎を救いに行くと言い残し、一揆勢が立てこもる原城を、目指して飛び立っていったというのだ。ところが、幕府軍の鉄砲で撃ち殺されてしまったのか、それっきり戻ることとはなかったらしい。

天狗の加勢はあてにならなかったが、四

値や魅力だけではなく、未来への確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用について語っていただく予定です。

これから、史跡としての島原城跡の歴史が始まります。今後は、島原城跡をしつかりと保存し、魅力をさらに高める取り組みを行い、市民の皆さまにはこれまで以上に島原城に親しんでいただき、さらに観光やインバウンドの面でもアピールしていきたいと考えています。先人と市民の皆さまの思いをつないで目指す未来は、島原城跡の保存と城郭を生かしたまちづくりです。

郎自身も生き延びようと必死だったようだ。いざ、原城が落ちようとするとき、四郎は一丈ばかりの高さの石壇の上に立ち、天に向かって呪文を唱えた。すると、黒雲が降りてきて、それにまぎれて空へ逃げようとしたが、どこからともなく白羽の矢が飛んできて雲をかき散らし、あえなく討ち取られてしまったという。

ほかにも四郎が龍になったという話もある。原城落城の際に四郎が竜玉を取り出して沖合に投げつけると、龍が現れて幕府の軍船を蹴散らした。まるでポケモンのようだが、龍は原城が落城したことを見届けると、大きな洞穴へと姿を消してしまった。この龍は四郎の化身であり、天草に干ばつがあるとき、龍神になった四郎に雨乞いをするとき必ず雨が降り、死んでからも天草の人々を守っていると伝えられたという。